

Ⅱ 結果の概要

第1部 たばこに関する状況

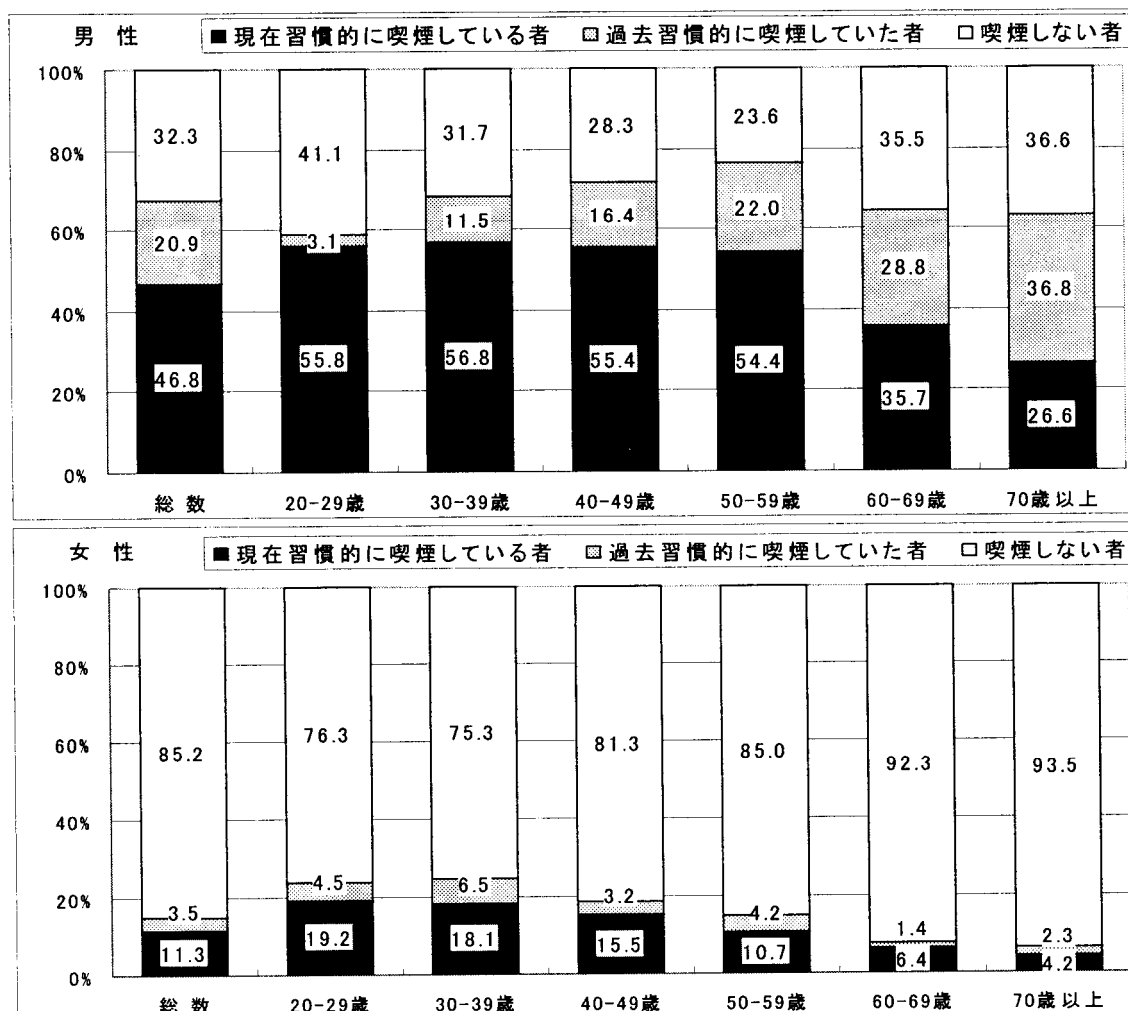
1. 喫煙の状況

現在習慣的に喫煙している者の割合は、男性で46.8%、女性で11.3%。

現在習慣的に喫煙している者（これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者）の割合は、男性で46.8%、女性で11.3%であり、男性では30歳代、女性では20歳代が最も高く、年齢とともに低くなっていた。

また、過去習慣的に喫煙していた者（これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者）の割合は、男性で年齢とともに高くなっていた。

図1 喫煙の状況



「現在習慣的に喫煙している者」：これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者
 「過去習慣的に喫煙していた者」：これまで合計100本以上又は6ヶ月以上たばこを吸っている者のうち、「この1ヶ月間にたばこを吸っていない」と回答した者
 「喫煙しない者」：「まったく吸ったことがない」又は「吸ったことはあるが、合計100本未満で6ヶ月未満である」と回答した者

2. この1ヶ月間にたばこを吸っている者

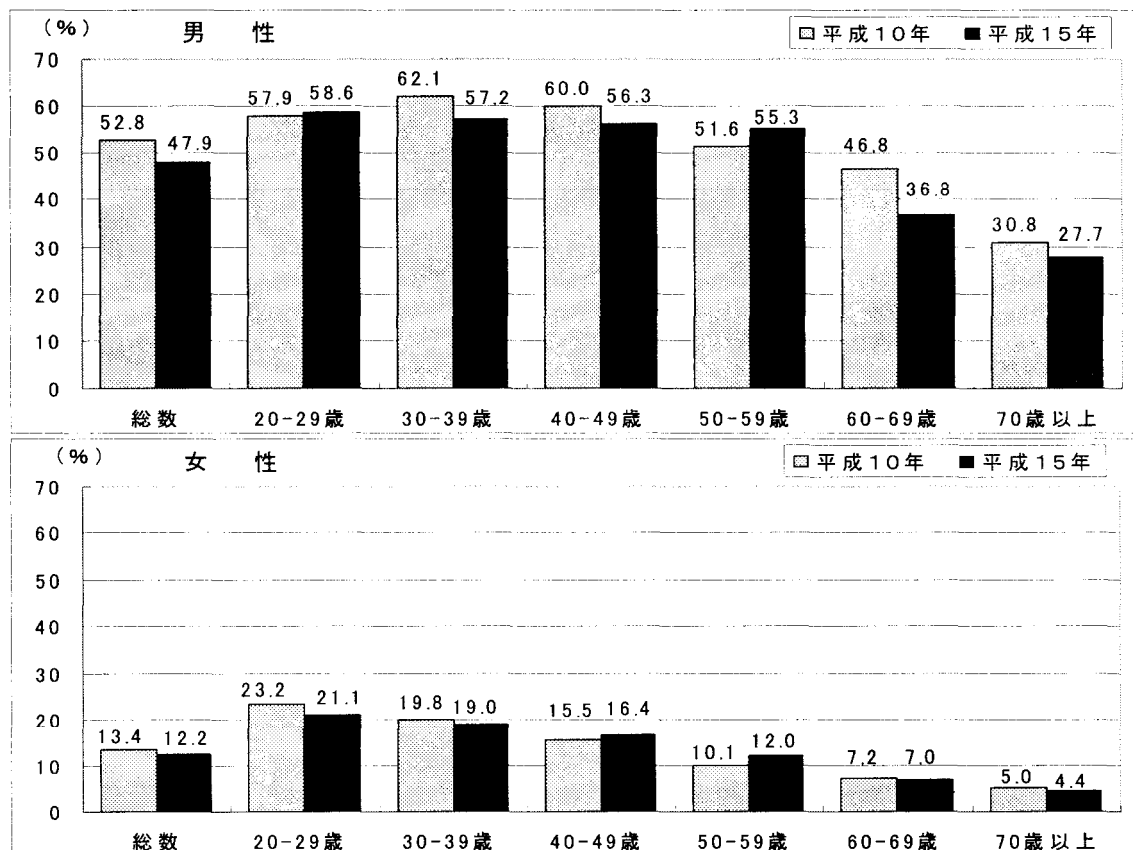
この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも20歳代が最も高く、20～50歳代男性では5割以上。

平成10年調査に比べ、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも総数で低下。

この1ヶ月間にたばこを吸っている者（喫煙歴に関係なく「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸っている」と回答した者）の割合は、20～50歳代男性では5割以上、20～40歳代女性の約2割であり、男女とも20歳代で最も高く、年齢とともに低くなっていた。

また、「平成10年度喫煙と健康問題に関する実態調査」（以下「平成10年調査」という。）に比べ、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合は、男女とも総数で低くなっていた。

図2 この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合



喫煙に関する平成10年のデータは、全て「平成10年度喫煙と健康問題に関する実態調査」結果より引用。（調査客体：平成10年国民生活基礎調査により設定された単位区から層化無作為抽出した300単位区内の世帯及び世帯員。20歳以上の客体数は12,034人。）

両調査とも問は以下のとおりであり、この1ヶ月間にたばこを吸っている者の割合の定義は、喫煙歴に関係なく、「この1ヶ月間に毎日又は時々たばこを吸う」と回答した者が全体に占める割合とした。

問. 「現在（この1ヶ月間）、あなたはたばこを吸っていますか。」

1 毎日吸う 2 ときどき吸っている 3 今は（この1ヶ月間）吸っていない

3. たばこが健康に与える影響の認識

たばこが健康に与える影響について「とても気になる」と回答した者の割合は、女性では5割以上、成人男性では3～4割。
平成10年調査に比べ、「とても気になる」と回答した者の割合は、5.1%増。

たばこが健康に与える影響について、「とても気になる」と回答した者の割合は、女性はいずれの年齢階級においても5割以上、15～19歳男性では約5割であったのに対し、20歳以上の男性では3～4割であった。

「あまり気にならない」又は「まったく気にならない」と回答した者の割合は、男性では約2割、女性では約1割と男性の方が高かった。

また、総数での平成10年調査との比較では、「とても気になる」と回答した者が増えていたが、「あまり気にならない」又は「まったく気にならない」と回答した者の割合は、変化がみられなかった。

図3 たばこが健康に与える影響の認識

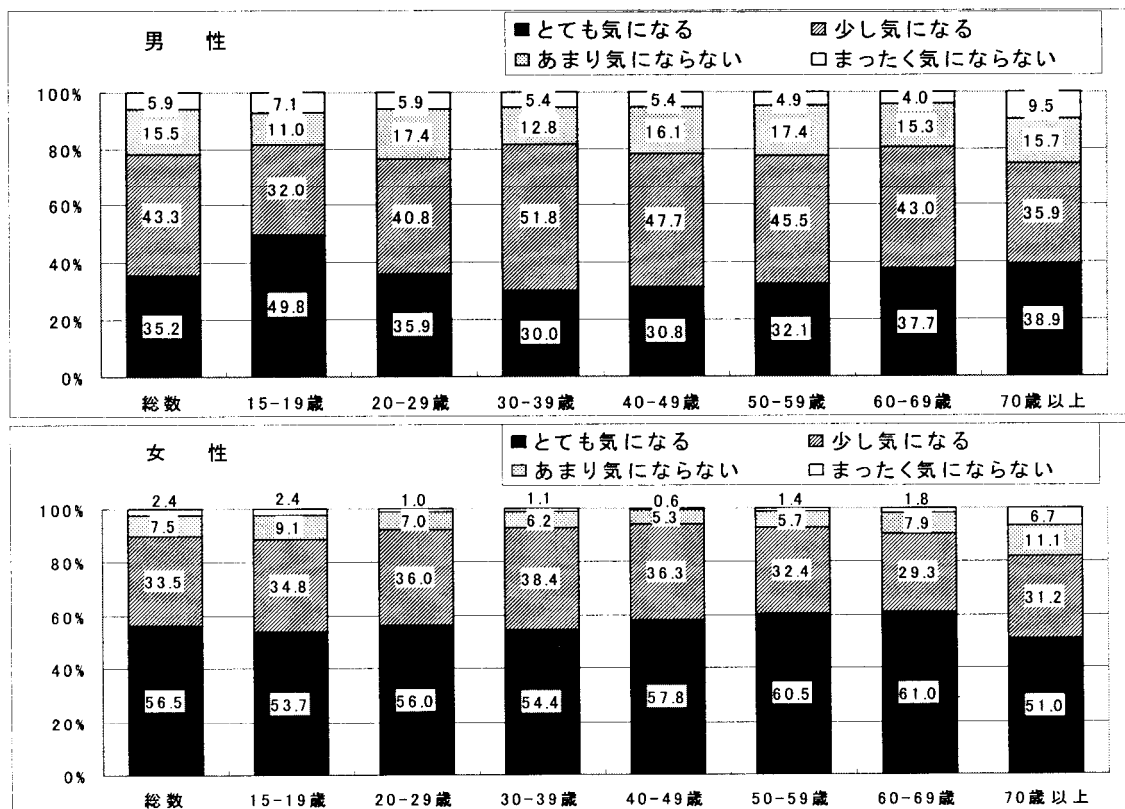
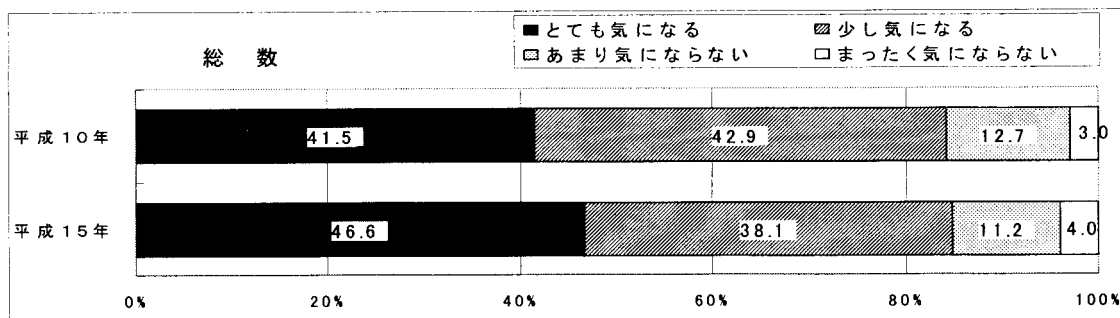


図4 たばこが健康に与える影響の認識（平成10年調査との比較・15歳以上）



4. 喫煙及び受動喫煙の健康影響に関する知識

たばこが健康に与える影響について、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「肺がん」、「妊娠への影響」では8割以上、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」、「心臓病」では5割未満。

たばこが健康に与える影響について、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「肺がん」、「妊娠への影響」では8割以上、「胃潰瘍」、「歯周病」、「脳卒中」、「心臓病」では5割未満であった。

また、「たばこを吸うとかかりやすくなる」と回答した者の割合は、「胃潰瘍」を除き、平成10年調査に比べ高くなっていった。

「たばこの煙を吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合は平成10年調査に比べ高くなっていったが、「たばこの煙を吸うと心臓病にかかりやすくなる」と回答した者の割合は4割であり、他と比べて低かった。

図5 「たばこを吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合（15歳以上・複数回答）

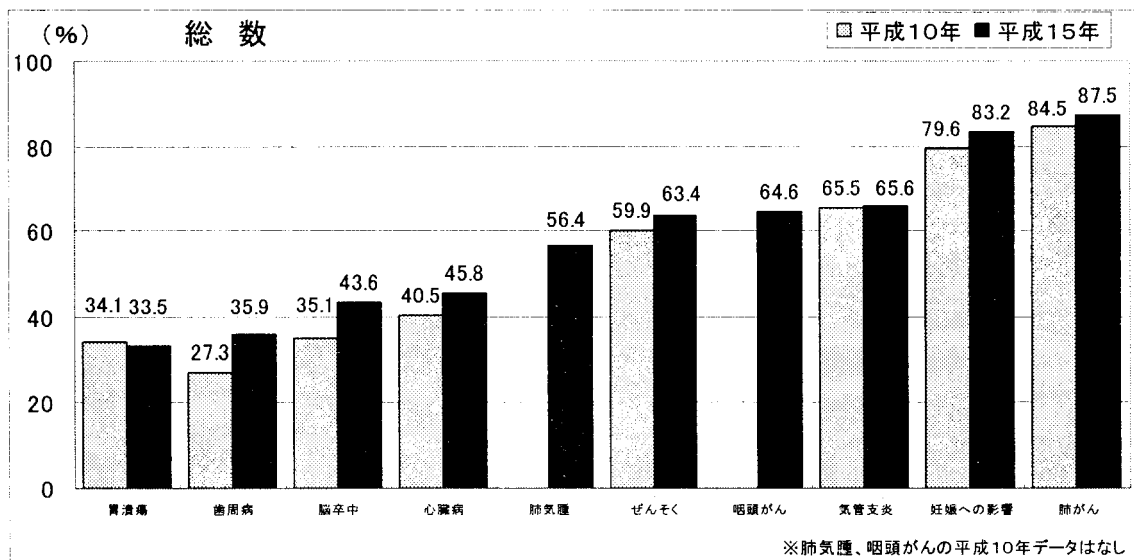
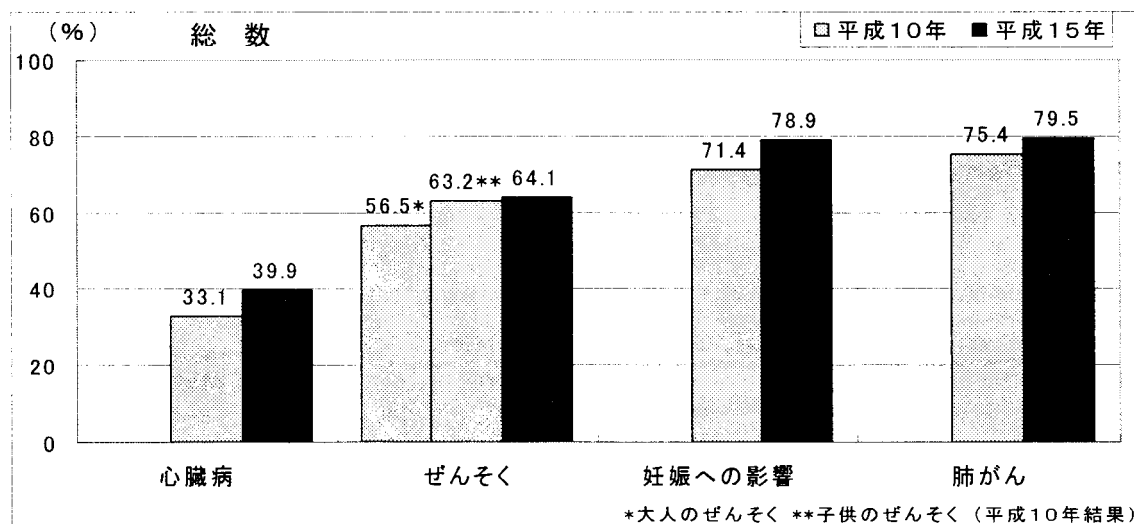


図6 「たばこの煙を吸うと病気にかかりやすくなる」と回答した者の割合

(15歳以上・複数回答)



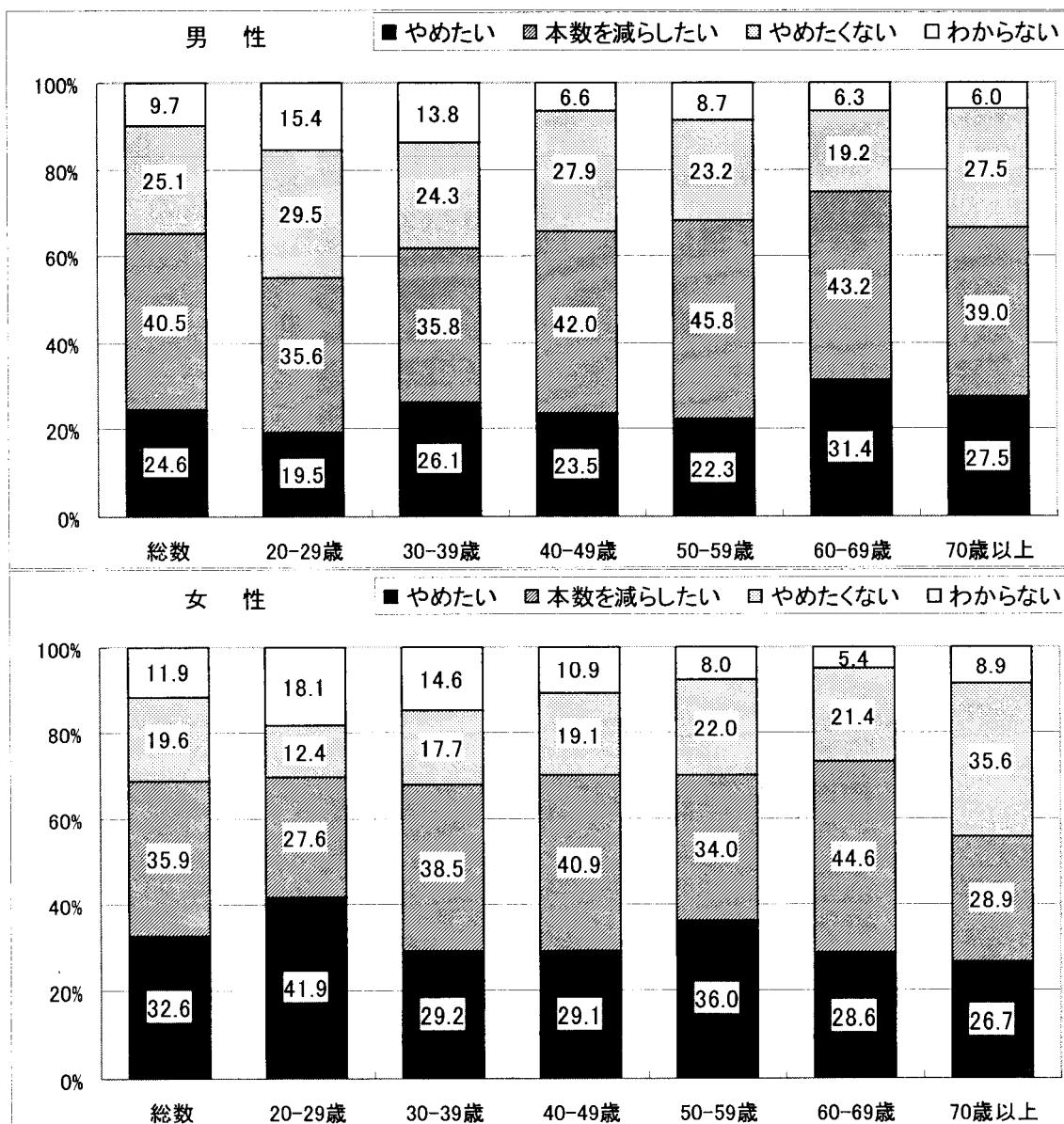
5. 禁煙の意思の有無

現在習慣的に喫煙している者のうち、「たばこをやめたい」と回答した者は、男性の4人に1人、女性の3人に1人。「やめたくない」と回答した者は、男性の4人に1人、女性の5人に1人。

現在習慣的に喫煙している者のうち、「たばこをやめたい」と回答した者の割合は、男性24.6%、女性32.6%、「本数を減らしたい」と回答した者の割合は、男性40.5%、女性35.9%であり、「やめたくない」と回答した者の割合は、男性25.1%、女性19.6%であった。

また、「やめたい」と回答した者の割合が最も高かったのは、男性では60歳代、女性では20歳代で、「やめたい」、「本数を減らしたい」と回答した者の割合をあわせると、全体で男女とも約7割であり、男性では60歳代まで年齢とともに高くなっていった。

図7 現在習慣的に喫煙している者における禁煙の意思



6. 禁煙の試み及び禁煙回数

現在習慣的に喫煙している者のうち、禁煙を試みたことがある者の割合は、男性で約5割、女性で約6割。

禁煙を試みたことがある者における禁煙回数は、50歳代男性が平均5.7回で最も多い。

現在習慣的に喫煙している者のうち、「禁煙を試みたことがある」と回答した者の割合は、男性で53.5%、女性で60.8%であった。「禁煙を試みたことがある」と回答した者の割合は、男性では20歳代が最も低く、逆に女性では20歳代が最も高かった。

また、現在喫煙している者で禁煙を試みたことがある者の禁煙回数は、平均で男性4.6回、女性3.6回であり、男性では50歳代が5.7回、女性では70歳以上が4.6回と最も高かった。

図8 現在習慣的に喫煙している者における禁煙を試みたことがある者の割合

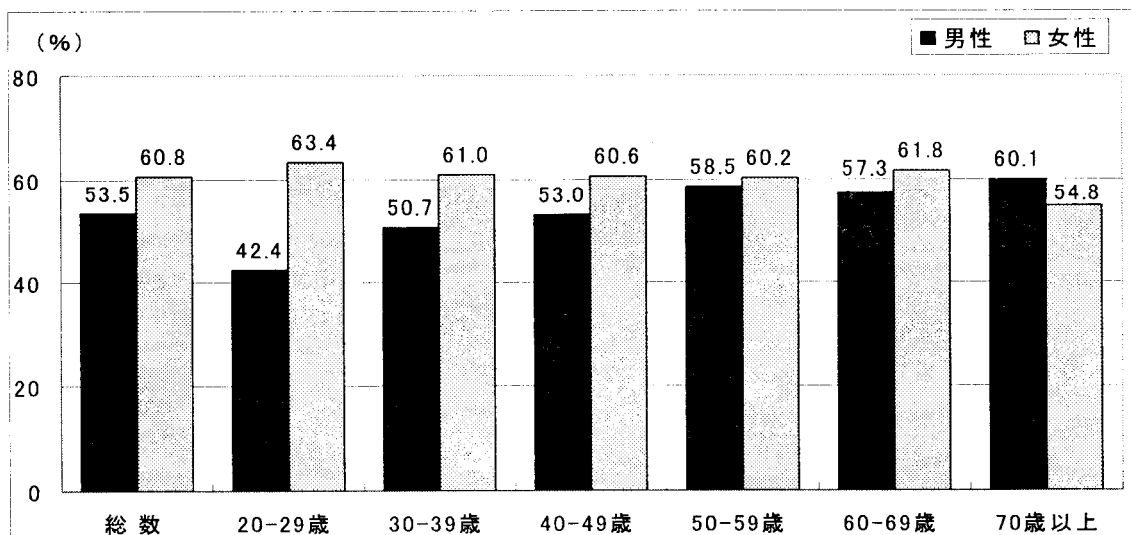
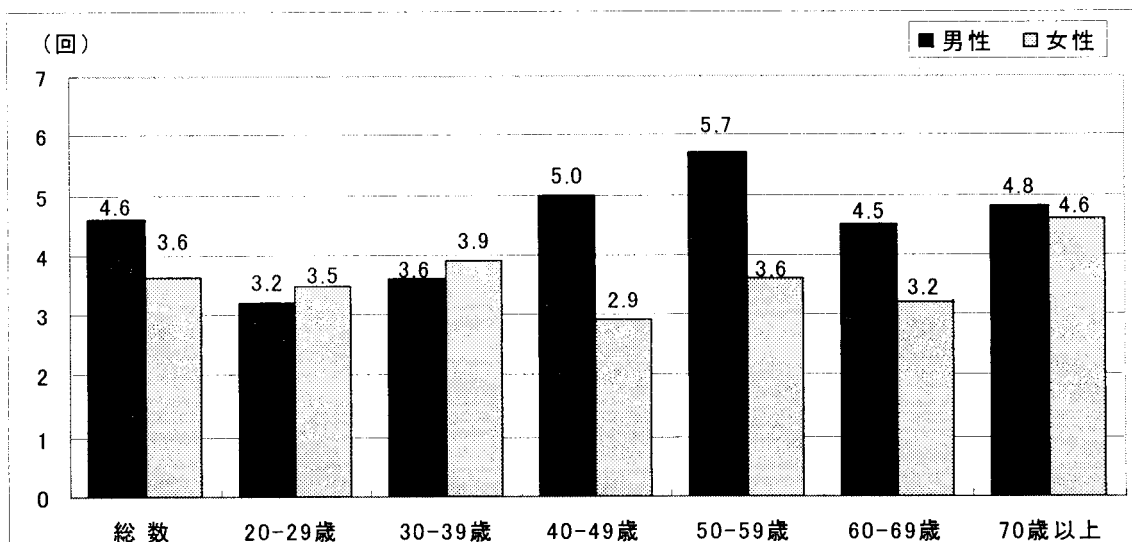


図9 現在習慣的に喫煙している者における禁煙回数（平均値）



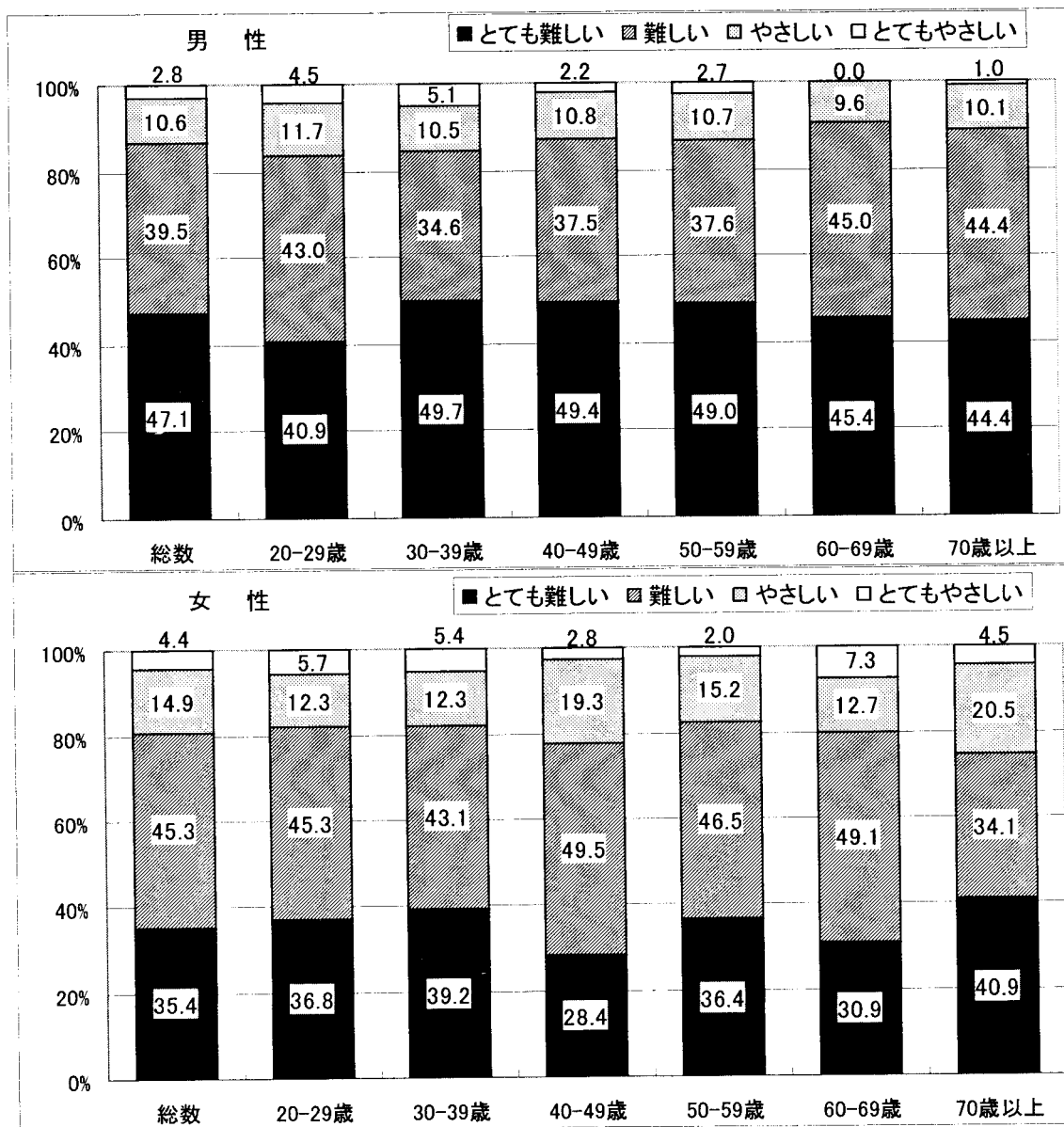
7. 1日禁煙することの困難度

現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをまったく吸わずに1日過ごすことが「とても難しい」と回答した者の割合は、男性で約5割、女性で約4割。「難しい」と回答した者をあわせると、男性で約9割、女性で約8割。

現在習慣的に喫煙している者のうち、たばこをまったく吸わずに1日過ごすことが「とても難しい」と回答した者の割合は、男性で47.1%、女性で35.4%。「難しい」と回答した者をあわせると、男性で86.6%、女性で80.7%であった。

また、男性より女性の方が、禁煙することに対して「やさしい」、「とてもやさしい」と回答した者の割合が高かった。

図10 現在習慣的に喫煙している者における1日禁煙することの困難度



8. 1日の喫煙本数

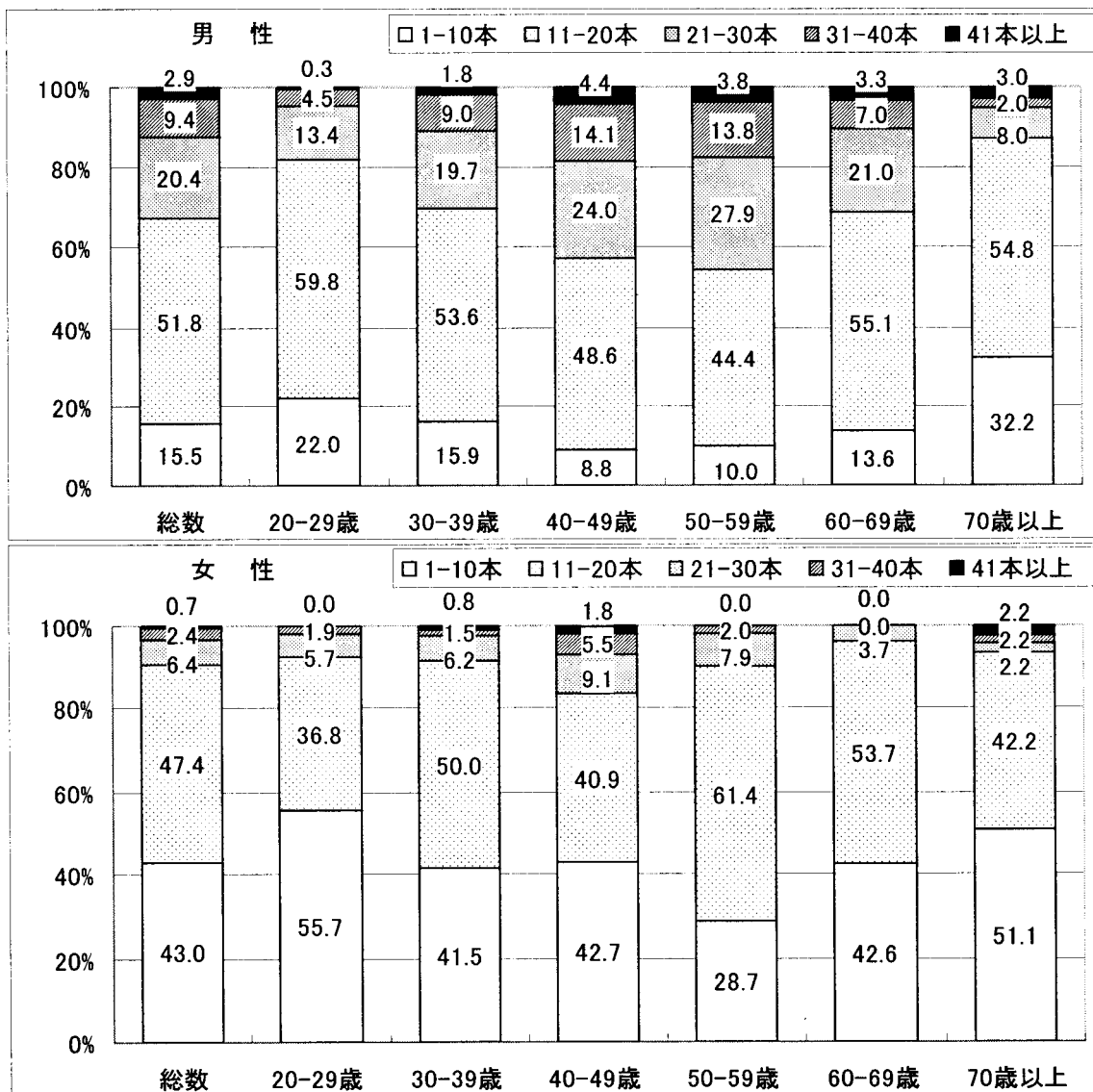
現在習慣的に喫煙している者において、男女とも1日に11～20本喫煙していると回答した者の割合が最も高い。

40～50歳代男性の約2割は、31本以上喫煙。

現在習慣的に喫煙している者において、男女とも1日に11～20本喫煙していると回答した者の割合が最も高かった。

また、40～50歳代男性の約2割が、31本以上喫煙していた。

図 1 1 現在習慣的に喫煙している者における1日の喫煙本数

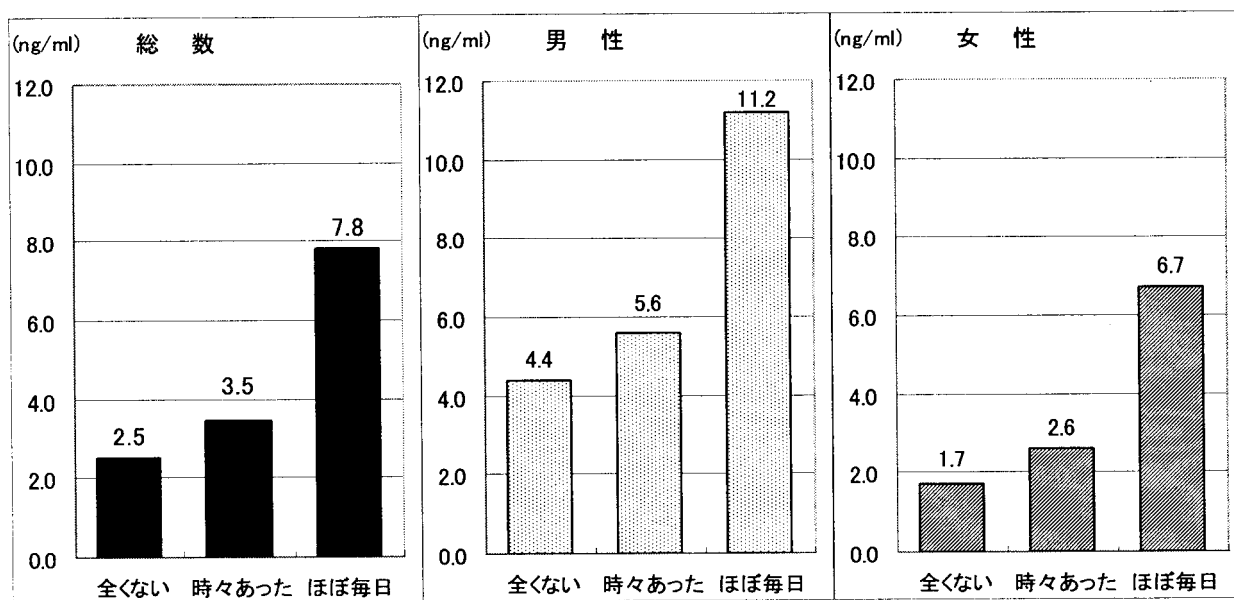


9. 受動喫煙と血中コチニン濃度

たばこを「まったく吸ったことがない」又は「今は（この1ヶ月間）吸っていない」と回答した者のうち、家庭又は職場で受動喫煙の機会が多かった者ほど、血中コチニン濃度が高かった。

たばこを「まったく吸ったことがない」又は「今は（この1ヶ月間）吸っていない」と回答した者における、家庭又は職場での受動喫煙（室内等において、他人のたばこの煙を吸わされること）の状況別に血中コチニン濃度をみると、受動喫煙が「時々あった」、「ほぼ毎日あった」と回答した者は、「全くない」と回答した者に比べて、血中コチニン濃度が高かった。

図 1 2 家庭又は職場での受動喫煙状況別、血中コチニン濃度



コチニン：

たばこの煙に含まれる成分の一つであるニコチンが体内で代謝されてできる物質で、受動喫煙の程度を示す指標の一つ。